

## 博士論文審査要旨

### 論文審査担当者

主査	明星大学	教授	板野	和彦
副査	明星大学	教授	佐々井	利夫
副査	明星大学	教授	樋口	修資
副査	国立音楽大学	教授	神原	雅之

申請者氏名 佐々木由喜子

論文題目 リトミックにおける身体表現法に関する研究

—20 世紀前後の身体表現教育との比較を中心に—

### (論文審査の結果の内容)

本研究はスイスの音楽教育家、エミール・ジャック＝ダルクローズ (Jaques-Dalcroze, Emile:1865-1950) の創案したリトミック音楽教育における身体表現法、プラスティック・アニメ (plasthique animée) の概念を明らかにするとともに、それをクラシック・バレエの舞踊法、デルサルトの表現理論、ダンカンおよびラバンの身体表現教育と対比させることにより、型や姿勢を重視したクラシック・バレエから自己の内面を表現することが最も重要であるとしたモダン・ダンスへの変遷の中で、ジャック＝ダルクローズのプラスティック・アニメがどのような位置を占めたのかを検証した。そしてその結果、リトミックは音楽に合わせて身体運動を行うという新しい表現法を提起することができたばかりでなく、心と身体を調和させ、自分自身の身体を自身でコントロールすることを可能にするという新しい教育の目標と集中力や思考力、社会性などを養うという目的を持つに至ったことを明らかにすることができた。

第 1 章においては、リトミックにおける身体表現法、プラスティック・アニメの概念、およびその成立の過程と変容を、ジャック＝ダルクローズの主要な著作を用いて検討した。特に『プラスティック・アニメの練習』は、プラスティック・アニメの理論と方法をジャック＝ダルクローズが明らかにした一次資料であるにも関わらず、これまで我が国では翻訳もなされておらず、その存在もほとんど知られてい

なかった。本稿ではこれを用いて研究を進めた。

その結果、プラスチック・アニメは音楽の聴取から、分析、身体表現と続く一連の流れの中で、神経組織と筋肉組織のより深い連携を構築し、音楽と学習者の内面を結びつけることで心身の調和のとれた人間教育としての目的を持っていたことを明らかにすることができた。

第2章においては、古典バレエの教育システムとして同時代に発表され、現在でも一定の評価を得ているワガノワ・メソードとの比較検討を行い、その身体表現法とプラスチック・アニメの比較検討を行った。その結果、古典バレエにおいては伝統的な型が重視され、音楽に合わせて身体運動を行うという考え方が重視されていないことが明らかになった。これはあくまで型の美しさを得るための技術を追求するバレエと自己の内面を表現してゆこうとするプラスチック・アニメの違いであると考えることもできる。

第3章においては、19世紀の舞台芸術の分野において「身体表現理論」を確立したとされる、フランソワ・デルサルトを取り上げた。心で感受したことを全身で表現することを重視した点については、リトミックの中に明らかな影響が認められ、空間の認識、教育の目的など複数の要素において共通する点があることを明らかにすることができた。

続く第4章においては、ジャック＝ダルクローズと同時代に活躍した舞踊家ルドルフ・ラバンの教育思想や舞踊教育における手法を取り上げ、比較検討した。ラバンの教育思想については、生活への応用や社会性の育成など、人間教育としての明らかな共通点があることを明らかにすることができた。音楽の捉え方については根本的な相違が存在していたものの、空間の捉え方など、複数の共通点が存在することも明らかになった。

第5章では、ジャック＝ダルクローズと同時代に活躍した舞踊家、イサドラ・ダンカンの教育思想と舞踊教育における手法を取り上げ、比較検討した。ジャック＝ダルクローズと同様に、音楽とともに身体表現を行うダンカンの手法が、音楽と動きに対する考え方には、ジャック＝ダルクローズのプラスチック・アニメとは根本的に異なっていることを明らかにすることができた。ダンカンにとって音楽は身体運動を生み出すきっかけにしかすぎず、「魂の靈感」と述べられる、あくまでも個人的な感覚に基づいたものであり、音楽に合わせて動いてゆくというプラスチック・アニメの捉え方とは異なっていることを分析的に明確にした。ただ、舞踊教育を通して豊かな人間性を培うという人間教育としての発想は共通したものであった。

結章では、第5章までの検討により見出された考察により、20世紀前後の身体表現教育とプラスチック・アニメを中心としたジャック＝ダルクローズの教育の理念と方法を検討することにより、リトミックによる教育の今日的意義を明らかにした。

音楽の聴取と身体表現を行うことによって、音楽の情感と学習者の内面的世界を結びつけ、心身の調和を目指したジャック＝ダルクローズの教育の特性が明らかになった。他の教育との根本的な相違と、教育思想の共通点も明らかになった。

音楽に合わせて身体運動を行うことによって、心身の調和を図り、人間の諸能力

を高めようというジャック＝ダルクローズの考えは独創的なものであったが、本論文はこれを 20 世紀前後の身体表現教育との対比によってより明確にすることに成功した。これは既存の研究には見られない発想でありオリジナリティは高いと言える。よって、本研究は博士（教育学）の学位を授与するに十分価値あるものと認める。

（試験および試問の結果の要旨）

口頭試問の際に論文審査担当者より、検討によって新たに得られた知見をより明確に示すこと、時代的な背景をより明確にすること、相関関係を図で表すとともに分析した結果を表にまとめること、等の指摘がなされた。以上の点を修正し、後日各審査担当者による再検討を行った。

審査委員会としては以上のようなプロセスで慎重に審査した結果、合格と判定した。